日合協東北連合会

前年同期比6.2％減

アス合材製造量 24年度第3四半期累計

日本アスファルト合材協会（日合協）東北連合会（野口秀典会長）がまとめた2024年度第3四半期（10～12月）までの製造量は新規と再生を合わせて302・8万㌧となり、前年同期の実績を6・2％下回った。内訳は新規98万㌧（前年同期比3・4％増）、再生204・8万㌧（10・2％減）。一般的な工事で多用される再生合材が大きく減少したことが、トータルの製造量に影響した。

第3四半期までの製造量は前年実績が322・8万㌧。第4四半期（1～3月）を含めた年度ベースは前年度、402・3万㌧と400万㌧の大台をかろうじてクリアした状況だった。本年度は前年同期を下回る水準にあり、連合会は「このまま推移すれば24年度の製造量は375万㌧前後になり統計開始から最小値になる」と見る。

前年同期比で見たアス合材の製造は第1四半期（4～6月）4・1％減、第2四半期（7～9月）5・5％減と前年度にも増して低調だった。県別で見た第3四半期までの生産量は▽青森48万㌧（9・3％増）▽岩手43・2万㌧（0・5％減）▽宮城62・9万㌧（13・1％減）▽秋田35・7万㌧（4・5％減）▽山形35・6万㌧（23・3％減）▽福島77・4万㌧（2・4％減）。宮城と山形の低迷が目立ち、山形は「高規格道路開通の反動減」などが大きく影響した。

連合会によると、年度初めに117カ所だった東北6県の合材工場は現時点で2カ所減り、115カ所になっている。製造量の減少は関連予算の縮小が主因といい、状況に変化がなければ各工場の稼働率向上を見込むのは難しい。

装置産業にとって工場の稼働率の低迷は採算悪化に直結し、統廃合を含めた議論が広がる可能性もある。年度ベースで400万㌧を初めて割り込むだけでなく、370万㌧台まで落ち込む状況は、災害発生時の応急対応、道路啓開を含め「地域の守り手」として使命を果たす上で、重大な問題になりそうだ。